T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	近世上層住宅における立花からみた接客空間の位置づけ
Title(English)	
著者(和文)	深田てるみ
Author(English)	Terumi Hukada
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11022号, 授与年月日:2018年12月31日, 学位の種別:課程博士, 審査員:那須 聖,中村 芳樹,奥山 信一,山﨑 鯛介,藤田 康仁
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11022号, Conferred date:2018/12/31, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

（博士課程）
Doctoral Program

論 文 要 旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間環境システム　　専攻	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士　（　工学　） Doctor of
学生氏名： Student's Name	深田　てるみ	指導教員（主）： Academic Supervisor(main)	那須　聖
		指導教員（副）： Academic Supervisor (sub)	

要旨（和文 2000 字程度）
Thesis Summary（approx.2000 Japanese Characters ）

本論文は「近世上層住宅における立花からみた接客空間の位置づけ」と題し、以下の７章から構成されている。

第１章「序論」では、研究の背景として、「もてなし」の原点としての茶道と比較し、華道においては茶室に相当する特徴的空間が生まれていない点を述べた上で、既往の研究において茶事が空間的な展開として建築との関係で論じられているのに対し、住居内の用法と設えの関係から花の特徴が建築の中で十分に位置付けられていないことを指摘し、本論文における「接客」、「接客空間」および「上層住宅」を定義した上で、研究の目的が、立花と座敷飾および御殿の用法の関係に着目し、花伝書に記されている花の飾付の格式を適用することで、近世上層住宅としての天皇、公家、武家、町家の住宅における接客空間の用法とその性格を明らかにするものであることを述べている。

第２章「後水尾天皇時代の内裏の御殿の用法」では、江戸時代の『専好立花図』に示された図中で立花の制作場所となっている建物の中から後水尾天皇時代の内裏の紫宸殿および小御所を取り上げ、史料である複数の指図と日記の照合から御殿の用法を検討し、紫宸殿における「立花御会」では公式の場として空間は「序（真）」の格式であるものの、立花からみた場合は花興行の時という「破（行）」の格式を示していること、また、内裏の小御所においては「嗜み」の空間として、立花からみると日常的な書院の座敷飾としての「破（行）」の格式を示していたことをそれぞれ明らかにしている。

第３章「寛永度後水尾院御所の御殿の性格」では、２章に続いて江戸時代の『専好立花図』に示された図中で立花の制作場所となっている建物から寛永度後水尾院の仙洞御所を取り上げ、『専好立花図』と日記を照合するとともに複数の指図と対照することで御殿の用法とそこでの花の形式を検討し、小御所・会之間は楽しみ及び稽古、御持佛堂は仏事の時、広御所は式正の時、御書院及び御茶屋は楽しみのための使われ方であること、初期の立花御会が稽古の目的であったのに対し、後期の立花は行事、儀式の飾付の一端を為すようになったことを指摘し、それぞれの接客空間の性格を明らかにしている。

第４章「公家住宅の御殿の性格」では、上層公家住宅の内、『専好立花図』以外にも日記・指図等が十分に得られた摂家の近衛邸、宮家の高松邸、門跡寺院の曼殊院をとりあげ、３章と同様に御殿の用法と花の形式を検討し、近衛邸では御成における主従の「もてなし」の接客空間としての対面所の性格と立花御会の稽古のための「嗜み」の接客空間としての性格を、高松邸では主従の「もてなし」の接客空間として常御殿の性格を、さらに曼殊院では御成において「嗜み」および主従の「もてなし」の接客空間としての性格を明らかにしている。

第５章「武家住宅の御殿の性格」では、『加賀藩史料』に示されている本郷邸への御成についての記録および、『南紀徳川史』に記されている竹橋邸への御成についての記録と赤坂邸への御立寄の詳細な座敷の飾付の記録から花と関連した飾付を取り出すことで、主従の「もてなし」の接客空間として御殿の用法と花の関係を検討し、江戸時代前期の紀州徳川家上屋敷竹橋邸への将軍御成の際に使用された御殿のうち、床に立花が飾られていたのは御広間と御成書院であったのに対し、江戸時代中・後期の将軍御立寄の場合は表御座敷の御書院と大奥御座敷の御座之間であり、４つの書院を対比すると表御座敷の御書院は御広間、大奥御座敷の御座之間は御成書院の性格を示していると考えられること、立花からも御成が序（真）の格式を示していることを明らかにしている。

第６章「近世の風俗絵巻にみる住宅内の立花について」では、町家も含め住宅内で立花が行われた具体的な場面を反映し、生活を室内までも含めて表現した資料として『近世風俗図巻』を取り上げ、そこに描かれた室内の構造、床の間、違棚、付書院、襖、その他飾り物等から花の種類と室内の用法を検討し、立花が武家および町家の座敷の床の間で行われ、花のある場面として、楽しみ、花興業、稽古の用法が見られること、「嗜み」、主従の「もてなし」の両方を取り入れていること、立花の形式からみると接客空間は破（行）と急（草）の格式があることを明らかにしている。

第７章「結論」では、以上を総括して、本論文の結論として花の格式として立花が上位の格式を保ち続けることで、床を備えた接客空間の格式を保つとともに、空間内の用法の展開に応じて花の飾り付け方も多様化し、様々な場所で用いられることで、個人的な接客や公的な接客の性格が形成されていたことを明らかにし、上層住宅における接客空間の性格を位置付けている。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

（博士課程）
Doctoral Program

論 文 要 旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間環境システム　　専攻	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士 Doctor of　（　工学　）
学生氏名： Student's Name	深田　てるみ	指導教員（主）： Academic Supervisor(main)	那須　聖
		指導教員（副）： Academic Supervisor (sub)	

要旨（英文 300 語程度）
Thesis Summary（approx.300 English Words ）

The dissertation titled *The Characteristics of the Hospitality Spaces on Japanese Upper-class Residences of the Early Modern Era defined by Styles of 'Tate-bana'* is composed of the following 7 chapters.

In Chapter 1, the aim of this study is stated to clarify the characteristics of hospitality spaces on Japanese upper class residences in the early modern era, especially in '*Tennō*', the Emperors, '*Kuge*', court nobles, '*Buke*', military nobles), and '*Chōke*', merchants, by analyzing the usage of '*Tate-bana*', arranged flowers, other decoration and residence configuration, with the application of the formalities of '*Tate-bana*' officially defined in the instructional books of *Ka-dō* (traditional Japanese flower arrangement).

In Chapter 2, *Shishinden* residence and *Kogosho* residence in the reign of the *Gomino-o* Emperor in the Kan'ei period are analyzed as the residence of the palace where the arranged flowers were pictorially recorded on the book *Senko Tate-bana-zu*. It is clarified that the formalities of building and its actual usage were different at *Tatebana-Gyokai* at *Shishinden,* and that *Kogosho* residence was place for the decency and the flowers were arranged as a daily decoration of *Shoin*.

In Chapter 3, the retired emperor's palace *Sento-Gosho* from *Senko Tate-bana-zu* is analyze on the usage and characteristic of each room. It is clarified that '*Tate-Bana*' transformed to a part of the decoration for receptions and ceremonies in the latter period, while *Tate-Bana-Gyokai* in the earlier period was the place for practice.

In Chapter 4, the residences of court noble, *Konoe-Tei* of *Sekke*, *Takamatsu-Tei* of *Miyake*, and *Manshu-In* of *Monseki-Jiin* are analyzed and, the characteristics of these residences is clarified as follows. *Taimen-Jo* in *Konoe-Tei* was a space for 'reception' in master-and-servant relationships on *Onari,* visit by *Sho-gun,* and space for 'decency' on *Tate-Bana-Gyokai*. *Tsune-Gosho* in *Takamatsu-Tei* was a space for 'reception' in master-and-servant relationships. *Manshu-In* had hospitality spaces of 'decency' and 'reception' in master-and-servant relationships.

In Chapter 5, the detailed records of flower decorations shown on the records, *Onari* to *Hongō-Tei* from '*Kaga-han Shiryou*', *Onari* to *Takebashi-Tei* from '*Nanki-Tokugawa-shi*', and *Otachiyori* (visit by *Tennō*) to *Akasaka-Tei* are compared. By considering the characteristics of a residences as hospitality space of 'reception' in master-and-servant relationships and the flowers exhibited there, differences between the characteristics of those residences are clarified, and the flowers arranged for *Onari* showing *Jyo (Shin) -beginning*, the primary formality are confirmed.

In Chapter 6, the pictorial description of flowers arranged in houses are extracted from the picture scroll *Kinsei Fūzoku-Zumaki* as a record of people's indoor life. It is clarified that *Tate-bana* was performed on *Toko-no-ma* in houses of *Buke* and *Chōke* and that flowers exhibited even in other places such as storefronts.

In Chapter 7, studies are concluded as follows: the high formality of hospitality spaces equipped with *Toko was kept by the style of Rikka* remaining the highest formality. And diversifying of style and place according to changes in usage of rooms led to the specific formation of characteristics of private and public hospitality.

備考 ： 論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。
Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).